



令和5年9月4日

各報道機関 御中

宮崎大学企画総務部
総務広報課長

宮崎大学のトピックス（8月分）の配信について

拝啓 時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

日頃より本学の教育・研究・社会貢献活動についてご理解とご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、本学は地域活性化の中核的役割を果たす大学として日々様々な活動を行っております。その活動の概要は、大学のウェブサイト上にトピックスとして掲載し、幅広く地域の皆様に見ていただけるようしているところです。

そのトピックスを月毎にまとめたものを報道機関の皆様にお配りし、大学の活動を知っていただくとともに、記事として取り上げていただき、より地域の皆様の目に届けたいと思っております。

つきましては、是非一読していただき、取材していただくようお願いいたします。取材にあたっての関係部署との調整・取り次ぎ等は総務広報課広報係にお申し付けください。

敬具

① 発信元

宮崎大学企画総務部総務広報課

TEL : 0985-58-7114 FAX : 0985-58-2886

宮崎大学最近のトピックス（令和5年8月分）

1. 地域に根差した人材育成に向けて - 第13回宮崎県・宮崎大学連携推進会議を開催 -
2. MRT宮崎放送との連携講義
- 「地域とメディア・コミュニケーション」全15回が終了 -
3. 台湾の高校生・大学生と対面交流
4. 岩間公典在バングラデシュ日本国特命全権大使が宮崎大学を視察
5. 宮崎県の地域の魅力・価値・課題について高校生が考える
～ 「ひむか共創人財育成塾」（ふるさと宮崎創成コース） ～
6. TOEIC マラソンに挑戦しよう ～ 夏期リーディング集中講座開始 ～
7. 夏休みの自由研究に貢献 ～ 公開講座「親子でソーラーカーを作ろう」 ～
8. 高校生100名が1泊2日の合宿
～ 大学教員が高校生にアントレプレナーシッププログラムを実施 ～
9. こどもたちに科学を身近に感じてもらう
- 夏休みの自由研青少年のための科学の祭典2023 宮崎大会 -
10. みやざき未来研究所 第5回「官民連携の可能」を実施
11. 宮崎大学オープンキャンパス2023を開催 ～ご参加ありがとうございました～
12. 創作ダンスの力で廃校になっても校歌を残したい
～ 第17回キッズデザイン賞を受賞 ～

1. 地域に根差した人材育成に向けて - 第13回宮城県・宮崎大学連携推進会議を開催 -

令和5年7月25日(火)、第13回宮城県・宮崎大学連携推進会議を開催し、日隈俊郎副知事・鮫島浩学長をはじめとする両機関の関係者約40名が出席。新型コロナウイルスが世界的に蔓延して以降、久しぶりの対面式開催となりました。宮崎大学と宮城県は、2007年6月に、地域の特性を生かし、活力ある地域社会の形成と発展に連携して取り組んでいくことを目指して連携協定を締結。2009年から連携推進会議を開催して、双方が進める人材育成事業や産業支援事業などについて情報共有・意見交換を行ってきました。また、2011年からは、より緊密な連携を目指して人事交流を開始し、現在も続いています。



冒頭で日隈副知事から、「宮城県と宮崎大学のように、(県と国立大学が)多岐に渡り密接に連携している事例は聞いたことがなく、今後も変わらぬ協力をお願いしたい」と、これまでの宮崎大学の各方面での貢献に謝意が述べられ、その後、宮崎大学側から、「宮崎県教員希望枠(教育学部)」や「宮崎県就職希望枠(工学部)」、宮崎大学が主導しながら県内大学と連携して進めるSPARCプログラムなどの各分野における人材育成に関する取組に関する報告が行われました。

続いて、宮崎県側から、県が進める施策の一つである「宮崎スタートアップ創出・成長促進事業」など説明があり、終始和やかな雰囲気の中で意見交換がかわされ、最後に、鮫島学長から「(宮崎県と宮崎大学の)2つの組織がしっかりタッグを組んで取り組むことが重要。強固な連携抜きに宮崎県は生き残れないとの共通認識のもとで、取り組んでいきたい」と、今後に向けた抱負が述べられました。

2. MRT宮崎放送との連携講義

- 「地域とメディア・コミュニケーション」全15回が終了 -

令和5年7月27日(木)、宮崎大学がMRT宮崎放送などと連携しながら、アナウンサー・ディレクターさんなどを講師に招き、放送関係の裏側までを知る基礎教育科目「地域とメディア・コミュニケーション(担当教員:地域資源創成学部准教授 土屋有)」全15回が終了しました。



本講座は、テレビ、ラジオ、スポーツビジネスなどの現状について学び、地域におけるメディアの役割・価値、メディアから見た地域の価値を相互の視点から理解することを目的に、株式会社宮崎放送(MRT)による全面的な協力を得て実施されるもので、放送局の経営・製作・営業などの地域メディアの最前線の専門職(アナウンサー、テレビプロデューサー、ラジオプロデューサー、テレビドラマプロデューサー、アプリ開発担当者など)が講師を務める実践的な講座です。

豪華講師陣に登壇いただき、全ての講座で学生さんが興味深く話しに聞き入っていたことが印象的で、学生にとっては実践的な学びをすることができたとても贅沢な時間となりました。この講義にご協力いただきました関係の皆様方には心より御礼申し上げます。

3. 台湾の高校生・大学生と対面交流

令和5年7月27日(木)、台中市(台湾)の高校生・大学生8名に宮崎大学を訪問いただき、宮崎大学の学生と対面式で国際交流を実施しました。



これは、NPO法人日台交流促進の会が主催する「宮崎で日本語と日本文化および歴史を学習するプログラム」の一環で宮崎大学を訪問し、基礎教育科目「英語T3(担当:本部AMY講師)のなかで、交流を行うものです。まず、台湾の高校生・大学生が文化や観光などを英語で宮崎大学生に対して紹介しました。その後、宮崎大学生の各グループが英語を用いて日本の観光・祭り・食文化などを紹介。慣れない英語での表現に苦慮する場面もありましたが、身振り手振りも用いながら、双方が親睦を深めていました。

4. 岩間公典在 Bangladesh 日本国特命全権大使が宮崎大学を視察

2023年7月30日(日)・31日(月)、岩間公典在 Bangladesh 日本国特命全権大使が来訪し、宮崎大学が宮崎市・国際協力機構(JICA)・地域企業との産学官連携により進めてきたICT高度外国人材導入事業「宮崎-Bangladesh・モデル/スタイル:B-JET」を視察されました。

同事業は Bangladesh 国の高度 ICT 技術者人材



の養成、宮崎および日本への導入を目的として、宮崎大学と宮崎市、JICA、地域企業等が連携して2017-2020年にJICA技術協力事業「B-JET」(Bangladesh-Japan ICT Engineers' Training Program)として実施され「宮崎-バングラデシュ・モデル」として広く知られています。

岩間大使は、同事業を担う宮崎大学国際連携センターにてB-JETを含む宮崎-バングラデシュ・モデル、周辺事業に関する経緯や現状、課題観等について意見交換。続いて、宮崎大学まちなかキャンパスにおいて、B-JET修了のICT人材を採用している宮崎市ICT企業連絡協議会の会員企業、および宮崎市内のICT企業に就職したB-JET修了生らと会われました。

視察の最後に鮫島浩宮崎大学学長を訪問されました。鮫島学長からは、アカデミアとしての交流の中で、農業、工業などの宮崎の産業を中心とした取り組み、また遠隔等による教育連携等、今後の取り組みの可能性が示されました。また、宮崎モデルだけでなく、昨年より宮崎大学が実施のアフガニスタン元留学生とその家族の支援にも触れて、海外からの移住者が地域社会の一員として生活するために教育機関として日本語教育の必要性・重要性を強く認識していること、海外人材受け入れの核は日本語教育であることが力説され、岩間大使も宮崎モデルの今後の展開や、これからの日本社会における日本語教育の重要性について意見を交わされ、最後に、岩間大使は宮崎-バングラデシュの間の人的交流は今後のバングラデシュ-日本の交流の一つのモデルとなることを話されて宮崎を後にされました。

5. 宮崎県の地域の魅力・価値・課題について高校生が考える

～ 「ひむか共創人財育成塾」(ふるさと宮崎創成コース) ～

令和5年7月31日(月)、高校生を対象とした「ひむか共創人財育成塾」(ふるさと宮崎創成コース)を宮崎県立宮崎南高等学校にて開催し、28名(6校)が対面形式で受講したほか、オンライン形式でも参加していただきました。(登録者は27校145名)



本講座は、令和元年度から宮崎大学が宮崎県教育委員会や宮崎県内の高等学校と連携して開始した講座です。大学教員や地域企業等の関係者が講師を務め、高校生と一緒に地域の魅力や課題について考え、討論することで、大学進学以前の高校生の時から地域の魅力や価値に目を向けてもらうことを目的に行っています。

本年度の第1回目となった今回は、齊藤美羽さん(宮崎大学地域資源創成学部3年)が司会を、中山隆さん(宮崎大学学び・学生支援機構地域人材部門特別講師)がコーディネーターを務め、「宮崎の観光の『宝』」と題して実施。地域資源創成学部の杉山智行教授と株式会社JTB宮崎支店の大坪泰斗氏が各地の事例を紹介しながら講演した後、参加した高校生同士でグループに分かれて、宮崎県の『宝』『魅力』『価値』を磨き・高めるための取り組みについて意見交換してもらいました。

なお、第2回目は、9月16日(土)に宮崎県立都城泉ヶ丘高等学校を会場に、「地域商社がみせる地域の『魅力』」と題して、宮崎大学地域資源創成学部の根岸裕孝教授と奥霧島地域商社ツナガルたかはる株式会社社長の温谷禎康氏が講師を務める予定。また、第3回目は10月7日(土)に宮崎県立高鍋高等学校を会場に、「地域で創り出す新たな『価値』」と題して、宮崎大学地域資源創成学部の橋口正嗣准教授と松浦牧場の松浦ちひろ氏、ケンコー食品工業株式会社社長の吉田努氏が講師を務める予定となっています。

6. TOEIC マラソンに挑戦しよう ～ 夏期リーディング集中講座開始 ～

2023年8月5日(土)、宮崎大学公開講座「TOEIC マラソンに挑戦しよう」が宮崎大学まちなかキャンパス(宮崎市若草通アーケード内)で実施され、6名の皆さんに受講していただきました。



本講座は、TOEIC満点、英語検定試験1級、全国通訳案内士の通称「英語資格三冠」を持つ

甲斐榮一さん(宮崎大学国際連携機構)が講師を務め、2017年から開始した講座で、今回で11回目を迎えます。2022年度までは、新型コロナウイルス感染症の影響により、オンライン形式で実施していましたが、4年ぶりに対面形式で開催することができました。

2023年度前期は、3回シリーズでリーディング(主にパート7)に特化した講座内容。最も力の差が出やすいとされるリーディングと向き合うにあたって、「リーディングに至るまでにどれだけの時間を残すべきか」「読む上でのポイントは何か」など、細かなテクニカルな部分も講師が直々に伝授し、受講者の皆さんは真剣に受講していました。

7. 夏休みの自由研究に貢献 ～ 公開講座「親子でソーラーカーを作ろう」～

2023年8月5日（土）、宮崎大学公開講座「親子でソーラーカーを作ろう」を実施し、定員一杯となる18組の子どもさんと保護者の方に参加していただきました。

本講座は、吉野賢二教授（工学部電気電子工学プログラム）が講師を務め、2015年から開始した講座です。吉野教授が、化石燃料が限りある資源であり、再生エネルギーを積極的に使っていくことの必要性や太陽電池の仕組みに関する説明。参加者の皆さんから積極的に発言があり、親子で楽しみながら太陽電池の仕組みなどを学んでいただきました。

その後、実際にソーラーカーを作ることに挑戦。親子で悪戦苦闘しながらも、アシスタントを務めた学生4名のサポートも得ながら全員のソーラーカーが完成。最後に、自分たちが作ったソーラーカーでタイムレースを行い、楽しみながら太陽電池の仕組みなどを親子で学んでいただきました。



8. 高校生100名が1泊2日の合宿

～ 大学教員が高校生にアントレプレナーシッププログラムを実施 ～

令和5年8月5日（土）・6日（日）、県内高校生を対象にしたアントレプレナーシッププログラムである「第1回宮崎・高校生プロデューサー育成合宿」をフェニックスシーガイア・リゾート コテージ・ヒムカにおいて実施し、約100名の高校生が参加しました。

これは、国立研究開発法人科学技術振興機構（JST）の「大学・エコシステム推進型スタートアップ・エコシステム形成支援事業」において、宮崎大学が共同機関として採択されたオール九州・沖縄圏一体のプラットフォーム「PARKS」が進める事業の一環として実施するもので、高校生が「アントレプレナーシップ（起業家精神）教育」を通じて、自身のキャリアや人生をより豊かで充実したものとし、同時に、周囲の人々や社会全体の発展に貢献できる力を身につけることを目的としています。

本プログラムの代表者である土屋有准教授（宮崎大学地域資源創成学部）は、大学が主催するビジネスプランコンテストでは国内最大級である「宮崎・学生ビジネスプランコンテスト」の総合プロデューサーを務める実務家教員。書類選考により選ばれた高校生に対



して、「社会とビジネスの仕組み」「世界と価値、お金の関係」「アイデアの作り方」などを、高校生にとっても身近な話題やキーワードを交えながら丁寧に説明することで、自ら選択肢を選び出す力や新たな選択肢を創出する力を持つことの重要性を2日間に渡って訴えかけました。

9. こどもたちに科学を身近に感じてもらう

- 夏休みの自由研青少年のための科学の祭典2023 宮崎大会 -

2023年8月5日（土）・6日（日）、宮崎科学技術館において「青少年のための科学の祭典2023 宮崎大会」が行われ、多数の方に参加していただきました。

本イベントは、「青少年のための科学の祭典2023 宮崎大会」実行委員会、（公財）宮崎文化振興協会 宮崎科学技術館、（公財）日本科学技術振興財団が



主催し、本学をはじめ県内の教育機関の後援の下で、秋山博臣教授（宮崎大学教育学部）が実行委員長を務めていて、平成10年（1998年）年に「科学フェスタ98 in 宮崎科学技術館」として開催して以来、23回目の開催となり、これまでに延べ20万人以上の方に会場いただいています。

以下の宮崎大学が提供する4ブース（教育学部・工学部・農学部）を含めて、小学校・中学校・高校等からの出展と併せて全体で述べ19のブースが提供されました。

宮崎大学教育学部：「光るスティックを作ってみよう」・「身近なもので面白実験」

宮崎大学工学部：「立体万華鏡を作ろう！」

宮崎大学農学部：「熱を利用した工作にチャレンジしよう！」

本イベントを通じて、多くのこどもたちが科学を身近に感じ、ご家族みんなで自然の不思議さや科学の面白さについて感じていただけたのではないかと思います。ご来館いただいた皆様、ありがとうございました。

10. みやざき未来研究所 第5回「官民連携の可能」を実施

令和5年8月10日(木)に「官民連携の可能性」と題して本講座の講師である脇雅昭氏と、本講座のアドバイザーで株式会社ワクワクプランニング/よんなな会理事の島田龍男氏を聞き手としてお迎えし、参加者と「官民連携の可能性」について活発な意見交換を行いました。

脇氏は、現在、自身が取り組んでいる官民が連携した取り組みについて具体例を挙げながら、それぞれの取り組みがどのような経緯で今の方向性となったのかわかりやすく説明。「100を目指すのではなく、1歩を踏み出すことが重要」と熱く語り、参加者からは「エネルギーのもらえる講演だった」、「今回学んだことを実践していきたい」との声が聞かれました。

次回第6回は『社会課題×ビジネス』と題して10月2日(月)に開催を予定しており、6回目以降からの参加者も随時募集しております。



11. 宮崎大学オープンキャンパス2023を開催 ~ご参加ありがとうございました~

2023年8月10日(木)・11日(祝・金)、宮崎大学オープンキャンパス2023を開催。5つの学部(教育学部、医学部、農学部、工学部、地域資源創成学部)が提供するプログラムに、全国各地から多数の皆様にご参加いただきました。

10日は、未明まで続いた台風の影響による大雨で開催が危ぶまれましたが、天候は持ちなおし、各学部で行われた模擬講義や模擬実習はもちろん、同時開催された音楽祭やバスツアー、各種保護者向けの進学・修学資金ガイダンスなど、全て予定どおり開催することができました。特に2日目は、晴天に恵まれ、南国宮崎の雰囲気の中でのキャンパスライフの一端を楽しんでもらえたのではないかと思います。

ご参加いただいた皆様方にはこの場を借りて御礼申し上げます。特に、遠方からお越しいただいた皆様方におきましては、台風の影響等があるなかでお越しいただいたことに重ねて御礼申し上げます。また、台風の影響により参加できなくなった方もいるかもしれませんが、宮崎大学は個人での訪問もできますので、又の機会にお越しいただければ幸いです。



12. 創作ダンスの力で廃校になっても校歌を残したい

~ 第17回キッズデザイン賞を受賞 ~

令和5年8月23日(水)、特定非営利活動法人キッズデザイン協議会が、「第17回キッズデザイン賞」受賞作品258点(応募数398点)を公表し、コンテンポラリーダンスカンパニー「んまつーポス」と対馬博物館(長崎県)、一般社団法人namstrops(宮崎大学発ベンチャー企業)の3者で企画・実施した「創作ダンスで校歌を残すプロジェクト」が受賞作品に選ばれました。

このデザインの中心を担った「んまつーポス」は、高橋るみ子氏(一般社団法人namstrops代表理事/宮崎大学産学・地域連携推進機構客員教授)、豊福彬文氏(宮崎大学国際連携センター客員研究員)、野邊壮平氏(透明体育館きらきら/国際こども・せいねん劇場みやざきエグゼクティブディレクター)および児玉孝文氏(MIYAZAKI C-DANCE CENTER代表理事)が2006年に設立した団体で、アートとスポーツの境界域で教育・アート活動を展開しています。

2019年には、宮崎市内に体育館と劇場を一体化した施設をオープン。昼間は保育のための空間を、夜と週末は地域の子どもと大人のための鑑賞空間として利用することで、地域環境による子どもの芸術体験の格差を解消することを目指したユニークな取り組みは、「場」の持つポテンシャルを引き出したて非常に特徴的であると評価され、KIDS DESIGN AWARD 2019 経済産業大臣賞(受賞部門:子どもたちの創造性と未来を開くデザイン/クリエイティブ部門)を受賞しています。

今後、最終審査が進み、優秀作品に選出されれば、六本木アカデミーヒルズにて表彰式が行われることから、同団体の更なる活躍が期待されます。

